

生活支援CNの報告

第2層

中央東包括圏域（道泉・深川・古瀬戸）

地域の状況（道泉・深川・古瀬戸）

人口:9,831人

老年人口:3,608人

高齢化率:36.7%

（令和元年4月1日現在）

＜地域の特徴＞

人口は市内で一番少ないが高齢者人口率は市内で2番目に高く、高齢者独居世帯率は市内で一番高い。古くから居住する住民が多いが、地域のつながりが希薄で少子化も進んでいる。

生活道路は道幅が狭く、山に沿って住宅が立ち並んでいるところもあり、坂道が多い。



主な活動 ①

地域包括支援センターとの情報共有

- ▶ Aさん（80代男性）
- ▶ 一人でいるのは寂しくて、話相手が欲しい。
- ▶ 楽しみは野菜を作ること。自宅から畑までは車で通っている。
→社会福祉協議会のこども食堂と野菜作りをつなぐことはできないか？
- ▶ Aさん：「子どもが喜ぶような野菜をこども食堂の開催日に合わせて作りたい」
- ▶ 包 括：「意欲的な様子が伺える」
「後ろ向きな発言が少なくなった」



主な活動 ①

地域包括支援センターとの情報共有

- ▶ Aさん:「高齢者の自動車事故が連日、テレビで報道されていることで、自分も免許証の返納を考えている。」

→こども食堂の開催日の翌日に返納することとなる。

畑に向かう交通手段がなくなる→野菜を作る楽しみ(生きがい)は...?

高齢者の地域での活躍 ⇔ 移動の問題

→Aさんのケースは決して特別なことではないのではないのか。

Aさんのケースから地域の課題へ。

主な活動 ② 各種団体の活動への働きかけ

- ▶ 地区社協や老人クラブなどが実施しているサロンや集まりに
伺い、買い物や移動、地域の居場所などの情報収集を行う。



主な活動 ③ 地域の声から

▶ 古瀬戸地区 買い物支援

【きっかけ】 昨年度、やすらぎ会館のバスを使用し、実施。

▶ 昨年の参加者：「配達をしてくれる店舗や業者は聞いたことがない。」

「元気なうちは自分の目で見て商品を選びたい。」

「気軽に集まれるような場所があれば、買い物について
相談できるのでは。」

→ 今年度は地区を選定し、ワゴン車で実施予定。

参加者・地域の声から支えあいの意識が生まれた。

民生委員・包括支援センター職員より意見を伺い、地域連携へ働きかける